

政治・経済

基礎事項と手薄な分野を補強し、演習問題を本番形式で。

I. 全体講評

今回の「最終 12月センター試験本番レベル模試 政治・経済」の平均点は 51.9 点。年間で最高の平均点であり、これまでの努力が報われているといえる。残るわずかの日数、効率よく実践的な学習をしよう。基礎事項の復習と手薄な個所の補強、さらに、本番形式で問題演習を時間を計って実施すること。また、用語集も絶えず脇に置き、丹念に何度でも確認することである。たった一語が選択の手掛かりになり、得点につながることもある。「政治・経済」は、直前の集中的な学習で大きな効果が出る科目でもあると言える。試験当日まで諦めず粘り強く食いつきたい。

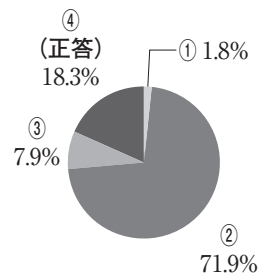
II. 大問別分析

第 1 問 基本的人権

新旧憲法の人権規定の比較と、各判例の再確認をしておこう。

得点率は 52.2% で、全 4 大問中では高水準の結果であった。しかし、低水準の項目が幾つかあった。まず、臣民の権利について問うた問 2 [2] は、正答率は 20.4% であった。旧憲法下でも「信教の自由」などの人権規定は存在した。新旧憲法の比較表で復習しておこう。また、問 4 [4] の正答率は 27.2% であった。「女性の再婚禁止期間」は、禁断期間を置くこと自体は違憲ではないが、期間短縮の判例が出たことに注意しよう。

問 1 [1] 各選択肢の選択率



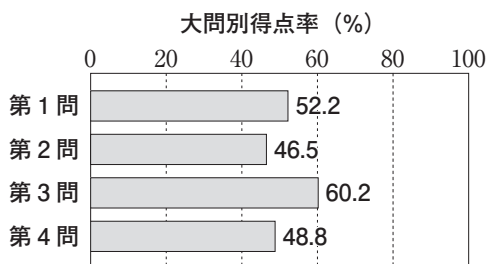
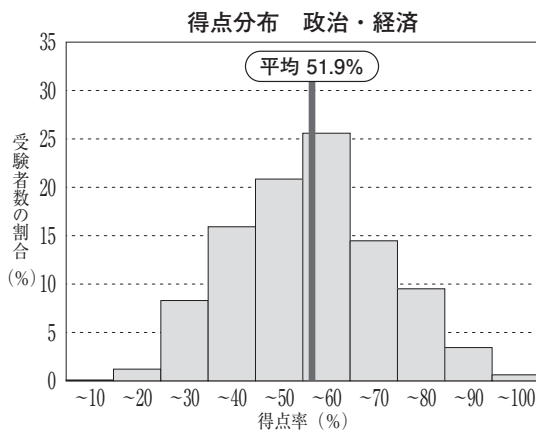
※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は 100% にならないことがある。

「帝国議会」についての出題だが、正答率は 20% にも届かなかった。国会が立法権を協賛する、国務各大臣が天皇を輔弼するという用語を理解していなかったものが 70% 以上もいた。「統治権の総攬」、「統帥権の独立」などにも注意。旧憲法にも衆議院の「予算先議権」はあったが、旧憲法では順序だけだが、新憲法では「自然成立」による衆議院の優位性を規定している。

第 2 問 地域的経済統合

世界の現状を総合的につかもう。

得点率は 46.5% で、全 4 大問中で最低の結果であった。なかでも、ベトナムについて問うた問



5 [15] は、正答率 20.9% であった。ベトナムの現代史で、「ドイモイ政策」は出来ていたが、「ASEAN」との関連、「南沙諸島の領有権」などは盲点的であったかも知れない。ASEANは、もともと、ベトナム戦争でアメリカ軍を撤退させ、その勢いで他国にも侵入する社会主義拡張政策に対抗して、周辺5か国が結成した政治同盟であった。冷戦終結後、経済同盟に変質し、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジアの5か国が加入し、現在、10か国で構成されている。経済のグローバル化、保護主義の台頭、貿易のサービス化など、日々の時事問題に関心を持ち、教科知識に結び付けよう。

第3問 労働・中小企業

手薄な箇所の基礎事項を固めよう。

得点率は 60.2% で、全 4 大問中で最高の得点率であった。しかし、弱い点が 2, 3 あるので指摘する。労働三法について問うた問 1 [19] の正答率は 29.7%。①の選択率が 43.2% に上った。最低賃金法と労働基準法が別に存在することは頻出である。各国の合計特殊出生率と女性就業率の相関について問う問 5 [23] の正答率は 38.7%。②の選択率が正答率と同程度であり、日本と韓国の区別がつかなかったことが分かる。韓国は日本以上に少子化が進行している。また、日本の合計特殊出生率についておおよその数字を把握していれば解答できた。その他、雇用慣行の変化、労働市場の変化、中小企業の特徴など、手薄な箇所の基礎事項を固めよう。

第4問 国際連合

安保理や総会、日本の PKO など、歴史と現状を正確につかもう。

得点率は 48.8% で、平均的な結果であった。そのなかで、日本の PKO について問うた問 7 [33] の正答率は 27.5% で低調。①の選択率が 42.3% と、正答率を大きく上回った。自衛隊のイラク派遣が PKO ではなく、特別措置法であることは頻出である。正答である「駆け付け警護」などの時事事項も含め、正確な理解を心がけたい。さらに、「平和のための結集」決議についての問 4 [30] の正答率は 32.4%。解答が分散しており、戦後の国際政治の歴史的背景が理解できていなかった。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆既習箇所の基礎事項をもう一度確認しよう。

「政治・経済」は、現実の時事問題と結び付けて問題意識を持つことが出発点でもある。新聞・テレビやその他のマスメディアを主体的に活用し、政治・経済現象を理解して問題意識を持つことで、真の生きた勉強になり、高度な試験問題に遭遇しても、健全な判断力で正答できる。

◆センター試験本番に向けて。

繰り返しになるが、「政治・経済」は最後の瞬間まで得点を伸ばすことが可能である。これまで積み上げてきた知識が多くなるほど、それらが有機的に結び付き、飛躍的に得点力が上がっていく。幅広い広範囲な基礎部分を確実に固めながら、実際に演習問題を体験し、「分かった」を「出来た」に変え、自信と確信を持てるまで再確認しよう。健闘を祈っている。